

○法面緑化



砂岩頁岩互層帯：金網（ $\phi 2\text{mm}$ 程度）が腐植し、緑化基盤を造成できていない



片岩類：緑化材が地山から浮いている



片岩類：繊維質ネットでは強度不足？



片岩類：緑化基礎工の不備、深さ方向の補強が必要



緑化材の面的剥離



金網等による抑止（固定）力が不足するため、表土層の緩みが発生



- 繊維質ネットの固定力が弱い（風化砂岩）
- 緑化材の根が地山（割目の少ない岩盤）に深く侵入できない→根系による深さ方向での固定力は期待できない
- 根系が発達することで表層部がルーズ化し、新たな不連続面の形成とともに、これに規制され崩壊しやすくなる？
- 緑化材の根が地山深層部に侵入した場合は、これを緩め、将来的に新たな崩壊要因となる？
- 緑化材は雨滴や地表水による地山面の直接的浸食を防ぐためのものであり、崩壊等の深層部でのすべりにはほとんど役に立たないか、むしろこれを助長する恐れがある？



通常、根系はルーズな表層部で発達し、固い地盤には侵入できない（大台ヶ原）。

上記写真も、概略崩壊面以深に侵入できていないため、崩壊防止にはほとんど寄与できない。



割目の発達した岩盤斜面の立木（島根半島：砂岩）

立木の成長とともに根系が発達し、岩盤の浮石化を助長する。岩盤斜面を緑化した場合の究極の姿である。

“緑化による斜面の安定化”といった安易な考えは改めるべきである。

☆緑化地盤や緑化材の特性を踏まえた適正な基礎工が不可欠である！



森林の地拵え

森林を荒廃（倒木、照度不足による表面浸食等）させないためには適正な管理が必要である。